

# 42 破天荒

令和 二年度版

創刊  
第三十四号

いよいよよ学校再開  
貴重な3か月であつたと  
思えるようにしよう

本日六月一日より、毎日の登校が叶います。振り返れば、三月二日に二学年学年末考査最終日の登校が禁止され、そこから見えない敵との闘いが始まりました。

そんな中で、皆さんは何を得たと言えますか？あるいは、この三か月を憂え続けていますか？もしくは、...

行事も、学校を始め、部活動など、いろんなものが中止となりました。歓迎バス旅行、総体、つい先日には、高校野球、相高祭...

どこに、この怒りをぶつければよいのか？それでも、言葉を選びながらも、各々が記入した悔しさに怒りを感じることは勿論なく、私達はこの先、何が皆さんにできるのか、何を皆さんに獲得させていくのかを、常に考えていかねばならない。そんな気持ちです。

このコロナ禍に、私達に勇気をくれた幾つかを紹介させていただきます。

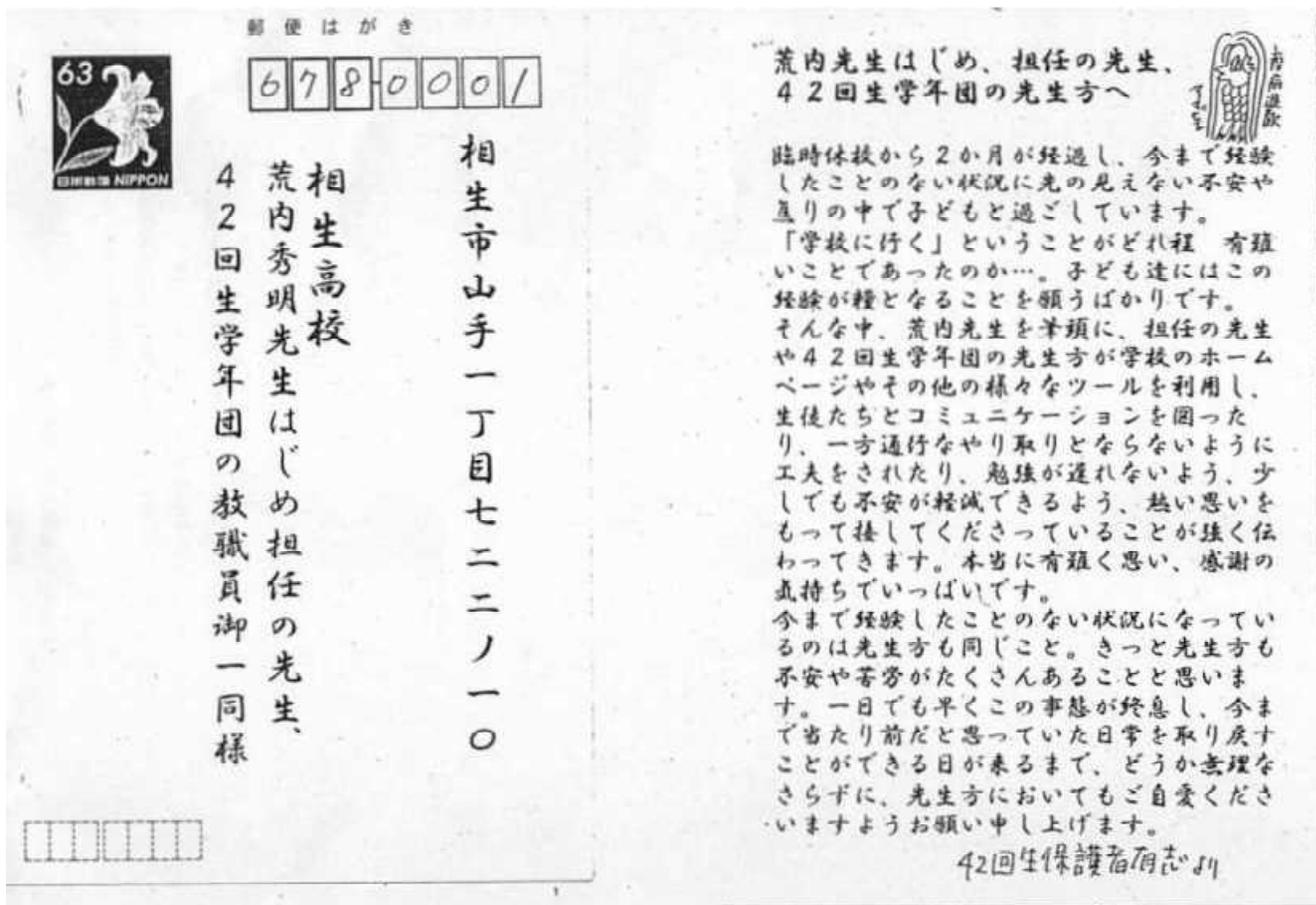
長文失礼致します。

高校生活最後の文化祭、あると願って数か月前から有志の準備等を進めていた3年生が大勢居ました。私もその1人で、正直なところ少し残念な気持ちはあるし、周りでいろいろな声もあがっているけれど、私はこの判断に心の底から感謝しています。言うまでもなく、今は安全が何よりも大切で、全国の高校生がこうしてぼやいている間にも、最前線で闘ってくれている人達が大勢居て、それはちゃんと理解しなければならぬことです。先生方のもとには、昨日の報告を受けて、煮え切らない思いと悔しさを表す文面や様々な声が届いているかもしれません。客観的に見れば、今、行事を開く事が地域含め多くの人の不安や危険に繋がる。と、気付けると思うので、少しの間は...。(..)、

今回はもちろんこれまでの判断、軽く簡単に下されたものではないだろうし、模試の中止も文化祭も、だれにも罪は無いことで、仕方ないことだと心を広く受け止めるしかないと思います。

なので、私は本当に先生方の取り組みに感謝しています。最後まで目を通して下さりありがとうございました。

5月20日(水) マナビジョンタイムラインに届いた生徒からの一通のメッセージ (原文のまま)



公立高校であろうが、私立高校であろうが、今の状況を甘んじて受けるわけにはいかないし、もし、そんな姿を皆さんに見せて、「頑張れ!!」と言っても、伝わるものではありません。この状況下で、これだけ皆さんとコミュニケーションを取れる状況を、相生高校の先生方は作ってくださいました。42回生だけで成立するものではなく、相生高校が「ワンチーム」になってこそその今があり、それに応えてくれるプレイヤーがいてこそその成果です。

勿論、道がまだまだ険しいのは「言わずもがな」です。でも、皆さんとなら、「困難の中の勝機」を見出せると思うし、勝ちを求めない闘いには、価値はない。

もう一度、想い出してみよう。「困難はどんな人に与えられるのか？」そう、「困難は、皆さんのような生徒に与えられる」何故ならば、皆さんは「困難から逃げない」生徒だから。

綺麗事では結果は出ません。ただ、心を変えるには理想が必要であるし、その理想に向かう皆さんの決意を産み出すには綺麗事もまた必要です。その決意を持続させて実行するためには、泥臭さです。

負けてたまるか!! いよいよ始まるぞ!!

**6月1日** いよいよ始動  
**自我を得た2か月か**  
**失われた2か月か**  
**42回生集団として**  
**最大** 残りあと10か月の  
**闘いの幕が上がりま**

兵庫県では、6月1日から毎日の登校が許可されました。ただし、12日までの二週間は、分散登校ということですが、本校では、二週間はクラスを二つのグループに分けて、一日の中で、一つのグループは午前、もう一方は午後という風に分散して登校し、翌週の同じ曜日には登校時間帯を逆に、二週間で、一週間の授業を受講することになります。  
特にこの先、社会全体に新たな問題が浮かんできていなければ、6月第3週より、通常授業を行うことができる予定です。放課後の面談、補習等も、行えると思います。

勿論、感染者数等の減少だけで、皆さんの不安がすべて拭きさらされるわけではありませんが、不安の中であるからこそ、新しい自己管理を徹底することで、危険を回避させていく、危険との共存を図ることが、コロナウイルス禍での新しい生活様式となると思います。  
小さい頃には、ごく当たり前に徹底していた手洗い、うがい、顔洗い、守っていた約束を思い出して、コロナウイルスが特別のものと考えなくて良い時期が来るまで、「大人だから大丈夫」「自分は大丈夫」という安易な行動を戒めながら、学校生活を過ごしていきたいでしょう。

何の安心感を与える話にもなりません。過去の経験で当たり前に授業ができていた時も、夏休みの面談で、「なかなかエンジンがかかからなくて」とか、「本当に受験生の自覚があるんだらうか」という言葉は、保護者からもよく聞いた話です。  
それに比べれば、「自分達はこれでよいのだらうか？」と、危機感を持って3学年の授業のスタートを切ることができ生徒が多いはず。それを、心の拠り所にして、より集中力を高め授業に臨めるはずと、捉えてみませんか？ピンチと思えることをチャンスに変えることができるはずですよ。

ただし、この3か月。張り詰めた気持ちで、自分の進路に向き合ってきた生徒にとっては、「足りていない」「もつとやらねば」という不安感が付いて回ると思えます。遠慮なく、担任の先生を含めて、学年の先生に相談してください。  
弱みを見せる勇気も必要です。なぜ、見せることができるのか？それは、その弱みを乗り越えたいと考えているからです。吐き出して、もう一度自分に対して、腹を括ることができると、立派な行為であると、私は考えます。  
弱音は、自分を隠すために吐きます。間違えないで。皆さんは、無限の可能性を秘めています。プラスの無限大を目指していきましよう。

**PTA進路研修会実施**  
**6月27日(土)**  
**本校体育館にて**

学校生活が正常化に近付くと信じて、右記の日程でPTA主催の進路研修会を実施します。

42回生にとっては、鬼門の進路研修会です。  
一昨年は、天候もさることながら、高大入試改革開始学年として、多くの不安も保護者の皆様には与えたかと思えます。

昨年は、警報とともに、会の開催が流れていきました。  
そして本年は、このコロナウイルス騒動。開催どころか、学校生活の再開も見えませんでした。三年目にして初めて、研修会開催に光が射しました。

6月5日(金)の課題調査後に、案内の配布をします。予定では、6月17日(水)辺りを出欠調査の締切日と考えております。今年度については、もし仮に、27日(土)の実施が叶わなかったとしても、後日日程を調整して研修会を行いたいと思えます。

現段階で、本年度3年生に、今から一年間の受験のための猶予が与えられることは、なさそうです。AO入試、推薦入試、私学入試、国公立大学入試等、不安は山積みですが、本校HP上で、学年連絡とともに、進路通信が発信されていたのを確認頂いていると思います。臨時休業中のお知らせは終了となりますが、進路通信については、目に触れるようにして下さると思えます。不安解消の一助にもなさせて頂ければと思います。

### スタディサプリの有効活用を

対面での授業がようやく再開できます。勿論、私達は待ち望んでいたことですが、今回のコロナウイルス禍のお陰で、皆さんには一つの武器が与えられました。有効期限は、登校できるようになったから終了するわけではありません。

まさに、ここからがサプリメントの真骨頂。知識の骨太、精神の骨太となる、効果的なサプリメントの使用を継続しましょう。  
「適切」。キーワードです。視る満足に終わらぬよう、武器も用いて、自分磨きを心がけましょう。

### 連絡

6月1日(月)より、出欠の扱いについては、本来の扱いになります。臨時休校中の登校可能日とは異なるので、気を付けてください。

5月半ばに、文部科学省が、大学の総合型選抜(AO入試から改称)と、学校推薦型選抜(推薦入試から改称)について、オンラインで面接を行うこともできるようになり、との入試方法の検討を通過しました。

どうなるかは勿論わかりませんが、ただ、有事での選抜入試が行える準備を通過したということは、そのような受験を考えている生徒は、知識、自分の主張、表現法などを身につける必要があると思えます。学力のアップだけでは足りない別の準備もしていかなければ、多くの時間浪費が起きてしまいます。

また、専門学校等のAO入試についても、エントリー時期が迫っているケースもありますが、今後のコロナウイルス禍への対応なども、よく確認してください。

特に、受験料、入学金、授業料等、大きなお金が動きます。いい加減な進路選択はしないと思えますが、金銭面等の説明や、カリキュラム等の説明が曖昧であったりすることもあります。自分自身がきちんと納得して、すっきりと受験を迎えるように、確認を怠らないようにしてください。

受験は事後報告ではありません。これもないとは思いますが、担任の先生に相談をしたうえで、行動してください。学校に無関係に話を進めることができる進路はありません。

多くの連絡が、新たに加わる可能性があります。しばらくはバタバタしますが、自分に不利にならないように、確認をしてもらいたいと思えます。